

## 2023年を振り返る

毎年12月31日には、1年のしごとや活動などを振り返ることにしている。現役時代とは違って、退職後は「時間軸」を意識させて行動しないと、メリハリに欠けた生活になってしまうからだ。愛用の手帳には、しごとや活動を時系列で記録している。これが1年を振り返るうえで役立っている。11月までの「活動記録」は、12月1日レポートしたので、その後を記録しておこう。

大阪市会の都市経済委員会、建設港湾委員会を傍聴した。11月22日に提出した4本の陳情書の審査が行われるからだ。万博とIR工事、IRアセス説明会に関する陳情書は、維新の反対により不採択となった。傍聴席で怒りが膨張したが、陳情書の意義と「効果」を再認識した。IRアセス準備書、IRアセス公述申立書を提出した。来年1月6日の公述会で厳しく問題を公述するつもりだ。

UCO ネットラジオ番組に5本収録。これで半年間で26本になる。最近は慣れてきたが、これも毎朝書いているレポートのおかげだ。12月最大の「しごと」は、大阪市政調査会『市政研究』への論文寄稿である。前から同誌に寄稿したかったので力を入れて書いた。「夢洲万博」の構想と厳しい現実と題して、愛知万博との比較を交えて8000字余りで問題を投げかけた。締切より早く送った。原稿締切「厳守」は、今回も守ることができた。

原稿を送ってから年末にかけて集中して進めているのが、宮本憲一先生「対談・講演集」の校正である。宮本背広ゼミで準備してきた企画であり、私も編集委員に加わった。「裏方」に徹しようと校正に力を入れてきた。草稿や「ゼロ稿」段階から目を通してきたが、第2校となり最終的なチェックをしている。プリンターのせいかな、活字が薄く、字も小さいので、チェックするのが大変である。でも読めば読むほど、宮本先生と4人の対談、それに関連する講演に引き込まれる。

9月で「後期高齢者」なるものに仲間入りした。大阪府後期高齢者医療広域連合の管轄になり、健康保険証も大きなサイズに変わった。保険料もアップしたようだ。保険証が廃止されたら、後期高齢者がマイナ保険証を持たないと、「資格確認証」で対応できるのか。自分の健康以上に不安になってくる。とにかく、現行の保険証を残せば不安解消できるのでないか。

28日にもレポートしたが、長年の「研究仲間」である宮入興一さんが亡くなられたことがショックである。災害研究の第一人者として、今後も活躍されると思っていたので、とにかく残念でならない。年末になって、どうも体調が良くないので気をつけたい。残された人生をどう生きるかを考えさせられる年の瀬である。

(2023年12月31日)